
推理の省略

青い絵 八代

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

推理の省略

【Nコード】

N9161G

【作者名】

青い絵 八代

【あらすじ】

前々から事件を解決している探偵比嘉氏一輝……。ついに彼は証拠隠滅された殺人の真相に迫る。彼の有能さは、御菓子警部お墨付き。彼には見習いの男 神崎 が居て、彼は楽しく暮らしている。そんな中、とあるクリニックであんまりな殺人が起こってしまうのだ。探偵の心得1 身近なところを日ごろ観察していること！ 覚えてね……神崎君。

(前書き)

誤字を訂正させてもらいます。

学びの無知を反省しています。まだなにかあったら教えてくれて
もかまいません。

僕は誰かって？ 知らないのか。分からないか。教えてやってもいいですか。

『比嘉氏一輝』……真実の探偵さ。

犯罪者 川上聖かわかみせい の声「おそらくあの名探偵は……もういない。ふつ、ネット上の探偵はすべて殺したはっはっはっは。簡単に言えば殺させたかな？ ……どうでもいい。僕は、もう世に出ることができるのさあアッハッハ」

時に、神は人を裏切る。常に、犯罪者は人を裏切る。

信頼できる人がいれば、どちらも永遠に裏切りをすることはないだろう。

神は架空。犯罪者は非道。つまり、どっちもどっちなのだ。

くだらないことは言いたくないが、この事件に関わる川上聖には関わりたくはなかった。

8：20、この街の耳鼻科「三波クリニック」。

「三波医院長おはようございます」

少々寝不足そうな顔で委員長にちゃんと挨拶しているのはこの看護婦だ。

彼女は、カバンに道具がそろっているか中身を確認している。

三波医院長に以前叱られたからだ。「忘れ物をするなんて小学生か」ってね。

「今日は昼までだね。おはよう、日立君」

日立美智子 25 独身。三波医院長に憧れて三波クリニックに勤める。彼女は大学ではかなりの腕前だったが、一度の失敗がトラウマになり外科医になれなかった過去が在る。

「ふあゝ、ちわつす委員長」

このいい加減な奴は、多野憲太。この病院のことなんてどうでもいいと思っっているが、お金が欲しいのが本音の性悪少年だ。ちなみに介護の腕で有能である。

「多野君もおはよう。元気そうだなにより、今日も看護師アシスタントのバイト頑張っしてほしい」

「はい、それより。今日は昼までですよね」

「それが……、今日はゲーム大会をしようと思う」

ワハハハ、と笑う土曜日のお勤め2人。

「医院長、もう二十歳じゃないですかあ。ハハッ」

「そうっすね。しょうゆーことね」

医院長！ ご愁傷様あゝ。ゲームなんてやってる暇は二人にはないのです。いろいろあってね。

12:00、三波クリニックのお昼。

「さよなら、二人とも。今日もがっばり儲けちゃったね。また会いましょう」

三波クリニックの土曜午後は、三波さんの家につながったっている廊下を通り、クリニックにゲームを持ってくる。

そして、ドラクエのTVゲームをするのが最近のブームになっている。

静かな、病院のホールはクーラーも利くので最高らしい。

3:00、三波クリニックのおやつ時のための悲劇。

その時間帯は、おやつを欲しがる5歳の息子と遊んだりする時間帯だった。

ポテトチップスが大好きな親子は、この場で引き裂かれる。
そして、彼の息子はテクテクと歩いて、クリニックに入って……
医院長殺害事件を見てしまうのだった……。
惨劇さんげきとはこのことであつた。殺し？

補足：犯人の痕跡は、殺害に使われた刃物と証拠が全くないこと……
……だけであつた。

補足2：警察は外部犯にしか出来ない犯行の形と判断した。

補足3：その息子は何も理解することはできなかった。若さゆえの過ちなどではない。

捜査その1

事件を知つたのは、その日の夕方で比嘉氏は助手の神崎とテニスをしていた。

プルルルル「もしもし」

「事件についてだが……」

「大体分かりました。その息子が、のんきにもお菓子を食べようと
していてっー、見つけたのか……第一発見者は白というわけかあ、
そうなんですかね」

「ああ、どうしても質問させて欲しい君は運動神経が抜群なのか？

」

テニスをしながら、電話している。

「これくらい、僕には簡単なことです。スポーツが好きだし、推理も好きだ。それだけですよ」

御菓子警部は、ちよつと比嘉氏のことがかつこよく思えたが、心配になつた。

「証拠がないなら、理詰めでしょ。僕もそちらに向かいます。警察署ですね」

「ああ、がやがやうるさい警察署に来てくれる君を尊敬するよ」

「じゃあ、神崎も連れて行きましょうか？」

？

「誰だそいつ」

「僕の助手です、あああああつ」

パソコン。テニスボールが携帯を打つ。

『なにするんだ、神崎！』

それはこっちのセリフです。真剣勝負でふざけないでください。

「プチッ」携帯が壊れた。

警察署、医院長唐突視察事件。「ダダッ」

比嘉氏と神崎は、事件の捜査部屋に入らせてもらった。

比嘉氏はあまり事件のことになると冗談は言わなくなる。少なくとも神崎へのメンツがどうしても気になるからだ。

つまり、事件に集中したがるのだ。

捜査その2

「御菓子警部、事件について分かっていることのメモを……、……、……、下さい」

実は、比嘉氏は空気をよく読み違える。おかしな直感が働くらしい。

「これですよ。比嘉氏探偵、みなさんに改めて教えてあげてください」

比嘉氏は、肩をまわしてリラックスしてから、説明した。

「殺害されたのは、この街の耳鼻科三波クリニックの医院長。名前は三波クイン……変わった名前ですね」……「殺害当時の状況ですと、午前中から正午まではしっかりと仕事をしていましたみたいですね。そして、大事なのは医院長はクーラーの利いて快適な環境でゲームをしていた中殺されていたと言うことです。この事件」……「ゲー

ムにならないといいですなえ。さらに、犯人は目撃されています。目撃者の姓名は上川伊勢つえかわけという、パンチパーマの気取ったおじさんらしいです。近くでサングラスなどが燃やされていたので、犯人は変装していたのではないかと思って、捜査を続けています」

「どう推理すればいいんだあ、ヒガシさん教えてください」神崎見習い は、ちよつと恥ずかしがりやだけど、とつても頼りにしてくれていい奴に思います。

「見習い神崎よ。問題です、犯人は変装したと思われていますが、もしそうならなぜ？ 変装したのでしょうか。理由を答えてくれ」

神崎 ばれないため？ いや、いまどき変装はばれそうだなあ？ 本当に変装していたのか？

「根本的に、変装をしていなかったのではないのでしょうか」

「理由は？」鋭く神崎に返す。

「そんなことをしていてもばれると思います」

神崎くん、それは違いますよ。

「その逆ですよ、神崎君。君は思い込みが強すぎるね。答えは、変装が完璧だったから。要するにプロ並の変装が出来る奴が犯人の可能性が高い……、この推理で間違いはないですよ。みなさん、どうです？」

「ヒガシさん、尊敬します！」

拍手もわずかに……。そろそろ現場検証だ。何か痕跡のようなものがあればいいが……。

そして、容疑者に直接会いたい。

捜査その3

三波クリニツク、夕方。

「ひゃー、もうこんな時間。大丈夫でしょうか、神崎君」

「さあ、僕もその疑問がありました」

このクリニツクは、二人には思った以上の快適さがあると思えた。

彼らのクリニックに対するイメージが古かったようだ。

おもちゃが転がっている。神埼にはお似合いだな、と比嘉氏は思った。

「では、ここのお勤めのみなさんなどの方自分について簡単に僕に説明してください。つまり、自己紹介をお願いします」

強力な沈黙が、ここを制し、最初奴は、上川伊勢という目撃者の男だった。

「私は、上川と言います。この区で野宿しているホームレスですが、先日は散歩をしていて……見てしまったんですよつ。こーんな大男を……」

「あの、探偵です。変装した誰かだったんですよね？」

「それより、ちげー。ニメートルもある大男なのよ、大男」

ひそひそと、御菓子警部に言う。「大男は連れてきましたか？」

「もちろん、しかし、背が高すぎて入れないんです。犯人じゃないとは思いますが」

「共犯かもしれないじゃないですか？ 危ないです、こうなったら、車椅子で入ってもらいましょうよ」

「探偵は、そこまでするのですか。了解です」

僕は、看護師数名と目撃者と怪しい部外者の中から、二人以上の犯人を割り出す準備を始めた、始めていった。

――推理ショー

「ようやく分かりました。この事件の全体像と、犯人が……」

比嘉氏一輝は、謎を解いた。

「静かに聴いていただきたい。そして、終わりに意見を。……」

「答えは簡単でした。変装がうまい犯人は常に変装したのですよ……」

……。犯人は、大男の目撃者上川伊勢さん。あなたです」

一同感服。

「あなたは一度だけ姿を見せました……。それは僕が探偵をやり始

め、真実を求めていた頃……。そうです、あなたは昔の有名完全犯罪マニア……川上聖！ 上川伊勢はよく見ると同じなんですよ。並び替えるとねえ！ 正直言つて簡単すぎるでしょこの暗号は……。しっかーしあなたのアリバイは確実に崩れています。あなたは完全犯罪を調べるうちに幻想的なもの、つまり変装ができるようにと日夜研究していたのでしょ。分かりますよそりゃ。このおもちゃにすべてが隠されていました……。さすがに予想できなかったでしょうね。死を目撃した息子さんが持つこの中に凶器があったとは……。三時五分前までにすべてを片付けるべきでしたね。あなたはこのようにしたのですよね。まず、看護婦さんのうち一人を味方につける。そして殺しをさせ、全ての証拠を隠滅する手助けをする。しかし、計算外……。あなたの完璧な計画が息子さんが五分前にやってきてしまったことで崩れた！ とっさに物陰に隠れたのでしょうか。そして、証拠隠滅を出来る状態じゃない……。そこで即座に外に出てあなたはあの看護婦さん呼びました。それでは……」

「それではっ」御菓子警部。

「ここから外に出ればつかまる可能性大。なので、息子さんの置いていったこのちょうどよく凶器が入るおもちゃに全てをこめたのです。それをあなたは何も無かったのかのようにランニングを楽しんでいたと……。全ては変装でしたね、そしてこのおもちゃが隠してあった場所が以外でしたね。僕が毎日見る場所でした……。そういうことで子供たちに人気のパークでした。あそこの公園って遊具が豊富で楽しいからみんな来ます。そして僕も……。まあすべてを観察することで分かったと言えます。一部の省略をお許しください」

「合っつていそうですが。でも……。証拠がないでしょ」

ギラッ。

「お黙り！ その凶器に指紋がべつたりでした」

「んなバカな。オレはそれを隠滅した……。はっつ」

「あなた、私の勢いに負けましたね。さようなら、完全犯罪者」

すごいです、比嘉氏さん。

「どういたしまして、神崎君。君も卒業かな？」

「これからもよろしくです。一緒に事件を解決する日が、僕も楽しみですよ」

「まあ、こんなのもアリかな。いろいろありがとう、この事件」
「とりあえず。」

完

(後書き)

面白ければ「へえ」のボタンを。

そして、見習いになりたい方は少々お待ちを。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9161g/>

推理の省略

2010年10月8日15時11分発行